

# 漁業・漁村の多面的機能に関する 国際シンポジウム

## 本県において開催



挨拶を述べる植村会長

去る二月十三日、青森県水産ビルにおいて、十七の国・地域の関係者約百三十人が参加し、「漁業・漁村の多面的機能に関する国際シンポジウム」が開催された。

冒頭、植村正治全漁連会長は、「漁業・漁村の多面的機能は新しい研究分野であり、それぞれの国の情報交換を図りたい。」と主催者を代表しての挨拶を述べた。



事例報告を行う佐藤組合長

佐藤組合長は、事例報告を行った。このほか、

べ、木村守男県知事（山口証義副知事代読）が来賓挨拶を述べた。

第一部の基調講演では、北海道大学大学院の廣吉勝治教授ほか三名の方が基調講演を行い、

第二部の各国事例報告では、日本（青森）における海難救助と漁業協同組合の役割と題し、佐藤博小泊漁協組合長（青森県漁船海難防止・水難救済会理事）



シンポジウム参加者

韓国、フィリピン、タイ、日本（伊勢湾・熊野灘）の漁業および漁村集落の多様な役割と機能について、事例報告がされた。

最後に、討論のまとめとして、漁業・漁村の重要な役割・多面的機能をよく認識したうえでこのことを広く国際社会にも発信し、施策の充実を各国政府や国際機関に働き掛けていくことで合意され、シンポジウムは閉会した。